

会議（打合せ）報告書

会議(打合せ)の 名称又は議題	平成30年度 第1回 白井市産業振興ネットワーク会議 会議録		
日時	平成30年7月10日(火) 午後2時～午後3時30分	場所	保健福祉センター 2階研修室2
出席者	<p>森吉委員長、野水副委員長、小川委員、板橋委員、山口委員、山崎委員、山田委員、押田委員、駒村委員、石毛委員、井上委員、河内委員、輪島委員、米田委員（欠席委員0名）</p> <p>事務局：湯浅市民環境経済部長、川村産業振興課長、山口主査、西口主査補、松本主任主事、綿崎主任主事、紫尾主事</p> <p>傍聴者 無</p>		
<p>(会議開催の趣旨)</p> <p>白井市産業振興条例第8条第2項に基づき、産業振興に関する施策を調査審議するため、平成30年度第1回の白井市産業振興ネットワーク会議を開催した。</p> <p>(内容)</p> <p>次ページ以降のとおり。</p>			

○事務局 それでは、皆様お待たせしました。本日は、委員の皆様におかれましては、大変ご多忙のところご出席をいただきまして、まことにありがとうございます。

本日の会議は、私のほうで進行を務めさせていただきます。よろしくお願いいたしますます。

着座にて失礼させていただきます。

今ちょっと遅れている委員さんがいらっしゃいます。本日の会議は13人の委員さんが出席されていることを報告させていただきます。

また、資料のほうは、あらかじめ郵送させていただいておりましたが、皆様のほうに届いておりましたでしょうか。もしなければ、事務局のほうに今おっしゃっていただければと思います。

大丈夫そうですね。

また、会議前に、皆様をお願いとして、今回も録音データで会議録を作成するため、音声で判別のつきにくい発言者のお名前がわかるように、意見を述べる際には手を挙げて、委員長さんに指名してもらってからご発言をいただきますよう、本日もお願い申し上げます。

なお、本日の会議は、白井市審議会等の会議の公開に関する指針に基づき、公開の会議になりますことをご了承願います。

それでは、定刻も過ぎておりますので、ただいまより平成30年度白井市産業振興ネットワーク会議第1回会議を開催いたします。

まず、森吉委員長にご挨拶をお願いしたいと存じます。

森吉委員長、お願いいたします。

○森吉委員長 皆さんこんにちは。暑い中お集まりいただきありがとうございます。

日本列島は今、日本で大洪水とか、沖縄のほうは台風等、非常に天災が起こっていて、この原因はやっぱり異常気象だと思うのですけれども、私が内燃機関の研究をやっているということで、ぜひCO₂を減らしていかなきゃいけないなということを痛感した次第です。

また、千葉は地震とか、これはCO₂とは関係ないと思いますけれども、いろいろ災害に向けて備えをしておく必要があるなというのを感じました。

この委員会は2年目に入りまして、1年目では、農商工振興のためにいろいろと現状を分析したり、他の事例の紹介をしていただいたり、今後の動向なんかを見ながらいろいろな課題を抽出して、その解決策のヒントになるようなことを皆さんとアイデアを出してきたと。

この30年度は、初めての取り組みや、いろいろな試み、新しい振興策についてもご紹介いただけるということで、このネットワークの前のいろいろな意見も反映されているものだと思いますので、ぜひ、きょうも活発なご意見をいただければと思います。

それでは、また1年間よろしく申し上げます。

○事務局 森吉委員長、ありがとうございました。

それでは、ここからの議事進行は委員長に委ねたいと思います。

森吉委員長、よろしく願いいたします。

○森吉委員長 では、第1回の議事を開始させていただきます。

前回の会議では、農業、商業、工業、各産業における地域の産業振興における社会的な課題についてという、さまざまな課題、データ、非常に膨大なデータを事務局からご説明いただいて、少子高齢化時代が及ぼす地域の産業課題、人材不足、後継者問題、社会や生活にまで及ぼすテクノロジー、さらにIT、これが及ぼす産業革命など、これからの時代が激変していくということを皆さんと一緒に考えてまいりました。

多岐にわたる非常に難しい問題ですので、すぐに答えを出すということとはできないと思いますが、まず認識をしていただきたいということで、今回の課題は三つありまして、一つ目は平成30年度の産業振興策について、それから2番目が観光振興及び地域資源の可能性についてです。3番目が、その他になっております。メインのテーマは、2番目の議題の観光振興及び地域資源の可能性についてになります。

前回の会議で、白井市は観光地ではないけれども、梨があつて、今後のインバウンドの需要も考えて、観光や地域の魅力について考えてはどうかというご意見があつたことを踏まえまして、きょうの事務局のほうで議題を決めたということでございます。

それでは、議題を進めてまいりますので、最初に事務局のほうから、30年度の産業振興策についてご説明をお願いいたします。

○事務局 議題1、産業振興策について、私のほうから説明させていただきます。

まず、議題1に入る前に、お手元の資料を確認したいと思います。

まず、郵送で送らせていただいたものに、次第と名簿と、あとパワーポイントの資料、1ページから39ページのものを郵送させていただいたのですけれども、ありますでしょうか。

それとあわせて、今回新しく「ふるさと産品」のパンフレットをつけました。それも皆さんの机の上に配付させていただいています。

それと、新委員の方には、条例と規則を送らせていただいて、あわせて委嘱状のほうを机の上に載せていただいています。

皆さん、ありますでしょうか。

では、皆さん、あるということで進めていきたいと思います。

それでは、議題1の平成30年度の産業振興策についてということで、この内容については、前回、29年度の会議でもご紹介させていただいたのですけれども、それにあわせて、また新規の取り組みを今年度も実施していきますので、それを皆さんにご案内していきたいと思います。

それではまず、農業振興策について、こちらのほうから説明してまいります。

こちらのほうは、例年どおりの内容が最初になります。農業生産技術・経営改善支援事業、水田農業経営推進事業、農産物ブランド化推進事業、担い手等育成事業、遊休農地解消事業、環境に配慮した農業推進事業、それと集落営農の組織化等支援事業、育苗センター事業、農産物販売拠点機能強化事業、農産物流通拡大事業、市民農園・体験型農園設立支援事業、ここまでのについては、例年行っているものとほぼ同じものになります。

これに加えて、今年度、新規の取り組みとして、三つほどご紹介したいと思っております。

一つ目が、「やおぷうる」、それと二つ目が、歌舞伎座梨試食販売、それと、しろい梨のブランド化推進計画策定、ただ、取り組みについては、これ以外にも、駅前で梨を販売したりとか、臨時的にイオンモールだとかを使いまして梨の試食販売等を行ったり、幾つかこのほかにも取り組みはしてまいります。

先立って、この三つをご紹介していきたいと思っております。

まず、「やおぷうる」ですけれども、これは何かと申しますと、八百屋と白井市に農産物直売所である「やおばあく」があるのですけれども、それと白井市民プールをかけた造語になりまして、「やおぷうる」と言っております。

名前のおおりに、白井市神々廻にある市民プールで梨の物販施設を建築しまして、プールの開設期間に合わせて、梨の販売であるとか農産物の販売をして、市民や、プールですと結構市外の方なんかも見えますので、そうした方へのPRにつなげるために行うものとなります。

主に、販売していただける方は、JA西印旛の方と社会福祉法人フラットの方にご協力いただいております。

ちなみに、これはちょっと資料には追加したものになりますが、このような物販施設を市民プールの入り口につくりまして、ここに保管とか、あとは白井市をPRするパンフレットなども設置して、これとあわせて移動販売車で梨の販売、PRを行ってまいります。

次に、歌舞伎座で梨販売ということで、これも今年度だけの取り組みになりまして、歌舞伎座木挽町広場にて、梨業組合の方が梨の試食販売を委託実施するものになります。

歌舞伎座ですと、皆さん、何となくわかるかなと思うのですけれども、いろいろな人が来て、東京やその近郊もしくは全国から歌舞伎を見るという方に対して、白井産の梨をPRできる絶好の場となるところになりますので、これを8月1日から8月31日まで、梨業組合の方にご協力をいただいて試食販売をしてまいります。

三つ目が、しろい梨ブランド化推進計画策定ということで、これについては、産業振興ネットワーク会議でも、これまで再三、どのような振興であるか、活性化について

意見をいただいていたところで、それをさらに具現化し、ブランディングしていくために進めていく計画を国の交付金活用できることとなりましたので、この機会に計画をつくって、ブランド力を高めていくものにしていく計画を策定していくものになります。

7月にプロポーザルを行ったのですけれども、事業者のほうは、先週に新しく決まったばかりでした。

農業の振興策は以上になります。

次に、商工関係の振興策ということで、こちらのほうも、最初のは例年どおりかなど。目新しいものとして、白井工業団地PR事業については、28年度に国の交付金を使って大きく幅広い事業を展開したのですけれども、それを白井工業団地協議会各企業さんのほうに協力いただきながら、引き続きPRを進めていく事業となっております。

次に、雇用労働推進事業ということで、今、市の一つの主要施策になっていまして、無料職業紹介所で労働相談、各種就職支援セミナーということで、今、雇用情勢が売り手市場に転じていますけれども、一方で、農業、商業、工業の担い手や後継者不足、人手不足という部分は否めないで、こうしたことも引き続き取り組んでいくものになります。各種支援セミナーでは、印西市や鎌ヶ谷市と協力し合いながら連携して、年に四、五回程度、実施していくことになります。

それと、今年度の取り組みで、創業支援事業のほうは29年度、昨年度から実施しています。こちらのほうの支援も強化しておりまして、昨年、前回の会議で創業支援事業計画というものをご紹介しましたけれども、それを実施ベースにのせていて、起業家や地域のイノベーターをふやしていければと思っております。

このほかに新規の取り組みとして、商工業の振興策でも、今年度は三つ行っていきます。一つが、これがメインになりますが、生産性向上特別措置法に基づく中小企業の設備投資支援について、あと工業団地見学ツアー、それと白井市就職フェア・合同企業説明会、2、3は隔年に実施しているものにはなりますが、今年度が実施年度となります。

ではまず、生産性向上特別措置法に係る中小企業の設備投資支援について、これについて簡単に説明してまいります。

生産性向上特別措置法というのは、6月6日に施行されたばかりの特別法になりました。今、経済情勢は回復傾向と言われてはいますけれども、一方で、労働生産性はかなり伸び悩んでいると。大企業との格差や中小企業が所有している設備は、特に老朽化が進んでいて、生産性向上に向けた足かせとなっている現状があるということで、それとまた、少子高齢化、人手不足、働き方改革への対応等、厳しい事業環境を乗り越えるため、老朽化が進む設備を生産性の高い設備へと一新させるという取り組みとなります。

これをなぜ行うのか、どのようなものかということで、次のスライドに行きまして、これだとちょっと見にくいので、皆さんに、別紙1で「中小企業の設備投資支援をします」というプリントをつけてあります。これをちょっと見ていただいて、ご説明してい

きます。

これは、市のほうで導入促進計画を策定し、国の同意を得た上で、市内の中小企業に先端設備等導入計画の策定をつくってもらって、市で認定した事業者に対しては、新設備を導入したものににかかる固定資産税を、3年間、ゼロから2分の1にして支援していきますという取り組みになります。

国のほうで、ちょうどこの資料の真ん中の左ぐらいに、導入促進指針の策定というものを策定しておりまして、これに沿う形で白井市が計画を策定し、つい7月2日に国から同意を得ることができました。

ここから、計画をつくる中小企業については、市のほうで、固定資産税の特例率をゼロから2分の1に決めることができまして、白井市としては、やはり県内最大の内陸工業団地、中小企業を中心とした企業体になりますので、そこへの支援を強化していきたいということで、ゼロで支援していくということにしました。

そのように6月に税条例も改正して、新設備に係る先端設備等導入計画をつくった企業については、3年間、新設備に係る固定資産税をゼロにするという取り組みをしていくこととしています。

この中小企業でつくる先端設備等導入計画の策定にあっては、この策定した企業が固定資産税の減免だけではなくて、ものづくり補助金やIT補助金、国の各種補助金のポイントがあげられる措置がありまして、各種補助率のアップや、採択で加点にもなるものとなります。市としても、こうしたことを支援していきたいと思ひまして、特例率ゼロとして支援していくこととしております。

資料のほうに戻りまして、16 ページに実施目的ということで、生産性向上特別法に基づく新設備に係る導入促進基本計画を市で策定し、償却資産分の固定資産税の課税標準の特例率を3年間ゼロにするよう税条例を改正し、中小企業の設備投資を支援して市内の中小企業を活性化、産業振興を図ることとしております。また、新設備導入促進により、翻って、将来的には市の税収確保にもつながっていくことを期待しております。

生産性向上特別措置法に係ることは、この概要にも書いてありますけれども、今後は、市のほうで広報等で周知をしていきまして、企業のほうで先端設備等導入計画策定をしていただき、市へ申請していただいて、固定資産税の減免のほうは、また冬、年明けて1月までに償却資産の申告をしていただくことによって、それから3年間減免されるものとなります。

その後、企業でつくる計画のほうは、3年間、4年間、5年間ということで策定していただくのですが、特例措置は3年間で、この計画をつくる条件としましては、労働生産性が3%以上上がること、これが条件とされております。

次の取り組みですけれども、白井工業団地見学ツアー、これは工業団地を皆さんに知

っていただく、見ていただいて、地域雇用の拡大であったり、工業団地のPRもしくはB to Bにつながっていければということで、10月から11月に予定していて、今、白井工業団地協議会さんと協議調整をさせていただいているところです。

それと、白井市版の就職フェア・合同企業説明会ということで、こちらのほうは日にちはもう決まっております。12月8日に地域包括で毎年行っている高齢者向けの就職説明会、地域イベントがあるのですけれども、今年度からそれと合同で実施し、より地域雇用の拡大、マッチング、PRにつなげていければなと思っております。

以上、三つの取り組みを今年度、商工振興策としては取り組んでまいります。

以上、雑駁でしたけれども、事務局からの説明は以上となります。

○森吉委員長 では、事務局のほうから、これまでの取り組みに加えて新たな取り組みを実施していくというご説明がありました。

しろい梨のブランド化については、これまで産業振興ネットワーク会議でも、ブランド力の強化、地域支援の強みにつなげていければという意見もいただいていたことを踏まえて、前進する取り組みを実施していただくということで報告しておきたいとのことでした。

それでは、今のご説明を聞いて、皆さんのほうから、ご意見、ご質問等があったらお願いしたいと思います。

なお、ご意見ある場合は、あらかじめ挙手いただければと思います。

では、どうぞお願いいたします。

○委員 よろしく申し上げます。

ちょっと素人っぽい話ばかり聞くかもしれないのですが、まず、この農業振興関係の中の担い手等育成事業と、それから遊休農地解消事業というのが挙げられていますよね。その具体的な説明はなかったのですが、たしか前々回ぐらいのときに、その担い手養成事業というのは、たしか40歳未満とか、農業を手がけたい人を年齢制限があったような記憶があるのですが、それは今でもそうですかね。全然違いませんか。話がずれているかもしれないのだけれども。

○事務局 こちらの資料のほうに、担い手等育成事業と書いてあるのですが、市の総合計画上ですと、多分、援農があって育成就農支援事業だと思うのですが、この担い手等育成事業という次世代、昨年の説明、自分はちょっとわからないのですが、新規就農の方に対して、次世代投資資金って国のほうからの補助金で5年間、年間で150万、最大5年間支給されるというのがあるのですが、そちらの制度に関しては、やはり45歳未満の方が対象になって支給されるものであります。

○委員 わかりました。多分そうだろうなと思って、意見みたいな感じであれすけれども、私なんかも団塊の世代でずっとサラリーマンをやって、たまたまこういう会議に出させてもらっているのですが、そういう人たちをいかに活用するかという視点

に立つと、やっぱりもうちょっと考え方を少し柔軟に考える必要があるのではないのかなど。

特に、高齢者の問題というのは、元気で何か仕事をしたり、社会の役に立つという発想で実際に行動されると、要介護になるのもなかなか遅いわけですよね。それで社会貢献もできるわけなので、年金生活になっても、一、二年はぼうっとしていたとしても、65歳過ぎると、大体もうサラリーマン終わって、地域に戻ってこられる方ばかりですよ。

そういう人たちの活用法というか、あるいは、その人たちをもうちょっと生き生きとやらせるような仕組みとかというのをこの産業振興の中にぜひ取り入れてほしいし、農業の担い手等なんかに役立つのではなかろうかなとは思っています。これは一つの意見ですよ。今後の課題として検討してもらえればなと思います。

それからもう一点、この遊休地の解消事業というのですけれども、具体的に何かやっていることってあるのですか。

あと、その前に、どのぐらい遊休地が今あるのかと、白井市内に。と、それから、その具体的な解消事業みたいなものがあれば説明をお願いします。

○森吉委員長　じゃあ、お願いします。

○事務局　まず、先ほどの担い手の関係と高齢者と団塊の世代の方の活用ということでお話があったところなのですけれども、今、市の総合計画のほうで、援農ボランティア育成就農支援事業というのがありまして、こちらを今年度から、就農型事業と援農ボランティア育成・活用事業を統合したものなのですけれども、昨年、千葉県で、その援農ボランティアのボランティアとして農業に携わりたい人と、あとは援農ボランティアとはどういうものかということで、農家の方を対象に、我孫子市でも既にそういったボランティアという仕組みができていまして、その方を呼んで、どういう形でマッチングをやっているかということで、講師を招いて説明会をやっております。

あと、それについて、農家側、あと、ボランティアとして希望者方のアンケートなんかもとってまして、そのアンケートの結果を踏まえて、白井市に合った形でどういふふうに進めるかということで検討中でございます。

先ほど、遊休農地の関係でご質問があったかと思うのですけれども、遊休農地、今、市の遊休農地として、農業センサス、その面積というか、実際の面積のデータ、大分変わってはいるのですけれども、実際のところ、現状の遊休農地と呼ばれている面積は、市内で200ヘクタール弱、197ヘクタールで、市内の農地がおおよそ1,200ヘクタールぐらいあるので、その5分の1ぐらいが遊休農地と。

こちらは、資料のほうに遊休農地解消事業として書いてあるのですけれども、具体的にどういう事業があるのかといいますと、具体的な事業は、今、大型の草刈り機の貸し出し以外、ないところではあるのですが、やはり遊休農地というものは、地域で考えて

いかなきゃいけない問題でありますので、去年は2回、おとしに3回やったのですけれども、その地区ごとに、人・農地プラン座談会というのを開催しまして、そちらについては、市の職員、あと農業委員、それから県農業事務所とか、農協さんとか、そういった方が地域の農協の方を集めて、これも地域の農業を誰がやっていくかとか、そういったものを話し合っ、例えば地域で、私やりますと手を挙げてくれた方がいれば、じゃあ、その人にどうぞとって農地を集めていこうという話し合いをする。また、担い手として中心的な人がいないという地区に関しては、これはもう、どこか外から法人なり、外から担い手を探してくるとか、そういったことをするしかないのですけれども、そういった今、話し合いを進めているところでは、これに関しては、1回、2回話し合ったからって、すぐに進む問題ではないのですけれども、徐々にということに取り組んでいるところでございます。

○委員 ついでにもう一つ。市の今おっしゃるのは、何とか話し合いをしていって、時間が過ぎて、具体的策は、今、基本的にはないということでもいいのですね。

○事務局 具体的には。

○委員 ということは、方針がないというふうに理解してよろしいですか。

○事務局 今、国を挙げて、農地中間管理事業というのがありまして、そちらのほうに農地を集約して担い手に貸そうという取り組みができてはいるのですけれども、千葉県ではなかなか進んでいかない状況では、今あります。そういったものも活用していければということによってやっております。

○森吉委員長 我孫子市なんかの取り組みをまねたりとか、話し合いは進めているということで、今後、そういう話し合いの結果をもとに、何かやっぱり市として、方針といいますか、いろいろ取り組み方について考えていただく必要はございますね。

ほかにご意見ございますか。

○委員 今、9ページの3番に、しろい梨のブランド化推進計画策定というのがありまして、コンサルタントを選んで、これからお願いするということだったのですが、具体的に、今、ブランド化というのは、例えば知名度を何年で何パーセント上げるとか、知名度が上がったら売り上げをどれぐらいに伸ばすとか、そういう何か目標設定というのはあるのですか。

○森吉委員長 お願いします。

○事務局 お答えさせていただきます。計画の中でも、そういう市場のKPIということで策定できれば、最終的にはと思っはいるのですけれども。あと、この推進計画を策定する経緯としては、今、行政のほうで、毎年、梨業組合なり、農協なりと連携しまして、市場ですとか、市場ですと仲卸とか業者が主ですけれども、あとは白井市が、柏レイソル、サッカーのホームタウンになっていまして、サッカーの試合日ですとか、レイソルホームタウンデーですけれども、あとは駅での梨の特別販売を行っておりますが、

若手の方が梨をそういう試食販売を展開したりとかを通じまして、そういった販売を通じて、しろい梨のPRというのを単発的な行事としてはやっているとは思いますが、それがどれだけ白井の方も含めて、白井だけじゃなくて、周辺なり都心なども、本当にしろい梨の知名度があつて、どれほど賞味いただいているかなという部分が不明なところもあります。今回の計画も大部分がブランド力調査、現状の調査という部分があるのですが、そういう現状把握をアンケート、生産者アンケート、消費者アンケートなりを含めまして、現状のしろい梨のブランド力というのを、まず見定めまして、それから今後、どういう方向で、しろい梨のブランド化を推進していけばいいかということを生産者の方と一緒に話し合ってもらいます。なので、さっきおっしゃったような具体的な数値としてどこを目標にすれば、しろい梨のブランド化が図れるかなということまで明確にできれば、理想ではあると思うのですが、そういう目標設定も含めまして、計画を中期、長期、3年とか5年とか、それまでどういうふうに取り組むをしていけば、しろい梨のもっと知名度アップなり、多くの方に賞味いただけるかという方向性を定めるのが、この計画の部分と考えています。

○事務局 補足しますと、これについては、中身については、これから専門のコンサルタントと協議していきながらですね。あと、市だけでは進められることではなくて、生産者の方の意見とかも取り入れながら、地域の方と連携しながら計画策定していくようなものになるかと思っておりますので、そこは今後、具体的なものが出来たら、またちょっと後ほど皆さんにご紹介していきたいとは思っております。

○委員 今、ご意見いただいて、どうされているのですかと伺ったのは、まず、そこを決めてからではないと、コンサルタントに頼むのは、むだじゃないかと思ったのですよ。先に目標を設定してから、それをどうしたいかというのを頼むとかがよかったのではないかなと思って聞いてみました。ありがとうございました。

○委員 それでは、どれぐらいの予算で、これコンサルタントに頼む、もう頼んでいるでしょうから、予算規模もお伝えいただければと思います。

○事務局 まだ契約にまで至っていないところで、業者選定のプロポーザルを行ったばかりのところなのですが、予算計上額自体は540万ということになります。

○森吉委員長 昔、デパートかどこかでアンケートをとられたときに、千葉県の梨というところまでは、皆さんはよくご存じだけでも、白井市というところまでは、なかなかブランドが浸透されていないというようなお話があったと思います。やはり千葉じゃなくて、白井市というところまでブランド力を上げたいということなのですよ。

○委員 市長は、白井市というのは、都心から約1時間で来られる非常に魅力ある町だということを常々おっしゃっていると思うのですが、この白井で大きなイベントをやったときに、どれだけの人を集められるか、収容できるかということは、課題としてあるのではないかなと。

なぜ、そういうことを言うかというところ、白井の梨マラソンってありましたよね。これ、参加人数は何人だったのですかね。

○委員 3,000人。

○委員 3,000人。その3,000人の方を、なぜ3,000人になったのかというところなのですかけれども、これは、それ以上は収容できない、警察のほうから3,000人が限界でしょうと、こういう指導があったというふうに聞いているのですけれども、その辺はそうなのですか。

○事務局 梨マラソンの担当をしているところは、違うので、詳しいことはわからないのですけれども、恐らく今3,000人というふうに設定しているのは、予算規模であったり、あとは今、交通的な問題であるとか、市民のほうの安全確保ですね、これが、詳しく聞いたわけではないのですが、3,000人という数字を設定しているのではなかろうかと思えます。

ただ、詳しいことは、担当課ではないので申しわけないですが、この3,000人というのが、恐らく今、白井市で梨マラソンを開催している上では限界というか、適度な規模ではあるかとは考えられます。

○委員 これは、参加者もお金を払って参加するということなので、費用的な問題はあったとしても、やっぱり安全上の問題とか、道路の交通事情とか、そういったことが挙げられていると思えますね。

ですから、それは例えば道路の問題であったり、町の、いわゆる都市計画のまちづくりの問題でもあるのではないかなと。では、これを1万人規模の梨マラソン、3万人規模の梨マラソンにしようということを考えたときに、じゃあ、どういう町であったら3万人規模の梨マラソンが実現できるのかと、逆に言えば、この地区で首都圏に1時間のところなもので、3万人のことは大きいけれども、3万人参加の梨マラソンというのになったら、すごい話題性もあるだろうし、インパクトもあるだろうと。やっぱりそういう逆に、3万という数字やってみようかと、そのためにはどうすればいいかというふうに考えて、都市計画なり何なりをコンサルタントに考えてもらおうと。どうしたら3万人の梨マラソンを実現できますかというような、例えばモータープールの問題もあるかもしれないし、いろいろとあると思うのですね、アイデアは。やらなきゃならないものは。それをどのように、具体的に何かテーマをつくって、みんなで協力して、まちづくりということをやっていくと、一歩前、2歩前へ出られるのではないかなと。

今のままでのやり方でいくと、いつも堂々めぐりで、夢は確かに皆さん描くけれども、一歩前へ出ない。やっぱり具体的な設定をして取り組んでみるといいのではないかなと思います。

ぜひ、都市計画という視点で取り組んでいただけたら、おもしろいのではないかなと思います。

○事務局 きょう、そのようなご意見があったということは、担当部署のほうに報告したいと思います。

○森吉委員長 ありがとうございます。

ほかにご意見なければ、次の議題に移りたいと思いますが、よろしいでしょうか。

○委員 ちょっとお聞きしたいのですけれども、しろい梨のブランド化という形のお話をされていましたが、実際のしろい梨というのは、何件分ぐらいで販売とかをされているものかなというのが、わかり得るものなのではないでしょうか。

例えば、ブランド化というのは定着してきたと思うのですけれども、それが店舗数がふえていくことによって、それがもう定着しているなということで一つの指針とかにもなると思うのですけれども、実際、今の販売、農家さんの直売所で販売されていることも多いと思うのですが、やはり一般的にはスーパーなんかの搬入なんかも多いと思いますし、そういうところで販売数をふやしていけばいいのかなとも思うのですけれども、そういう面から、今、何店舗ぐらいで販売されているかというのはわかっているのは。

○委員 鎌ヶ谷には負けている、それから茨城にも負けている。

○事務局 正確な数字ではないのですが、市内では、直売所がおおむね60店舗から70店舗ほどございます。

ご質問があった全国でしろい梨をどのくらい扱っているかといいますと、いわゆる市場出荷、市場に出す金額については、おおむね去年の実績ですと10億円です。それで、大田市場ですとか築地市場、それぞれ仲買さんが買って、全国の小売店のほうに流れていくのですが、大変申しわけございません、市場出荷の金額までは押さえてあるのですが、それ以降、どこの店舗というか、いわゆる数的なものは押さえていない状況です。申しわけございません。

○委員 この件は、以前も農業のところで取り上げて、どうしたいのかという話があったかと思うのですよね。どうしたいのかというのは、もっとしろい梨がたくさん売れるようにしたいのか、それには、しろい梨をもっとたくさんつくれるのか、いや、もうつくれませんか、梨農家さんの畑を広げることはありません、高齢者になっているので、もっとたくさんの方が従事することもあります。そういう中だったら、何をしようとしているのか。高く売れることを望んではいるけれども、たくさん売れることはできないのだからということの確認しておく必要があるだろうと思うのですよね。

数量は、たくさんしろい梨が売れるようになったらいいだけ、つくらないのではなくて、つくれないのです。だから、そうじゃなくすると、高く売りたいということをやろうよということ掲げたのですよね。ブランド化って、そういうのですよね。

○委員 高く売るというよりも、希少価値がありますよね。だって数が限定されているのですから。日本一おいしい梨を、もう数はこれしかありませんよといったところで、

値はつきますよね。

○委員 だから、それは高く売れる。

○委員 結果的に高く売れる。

○委員 だから、鎌ヶ谷や市川の梨よりも高く売れるのかと。白井を知っている人は千葉県民以外では余りいないのだから。そこは、だけれども、それはコンサルがどんなことを言ってくるか、ぜひ聞きたい。ここでも取り上げたらじゃないですか、しろいの梨をどうしたらいいのかと。

○委員 完熟した、いわゆる、しろいの梨は非常においしいですよ。非常に特徴もあるし。梨園によって味も多少みんな違うので、いろいろ、それこそ梨園ごとのブランドというか、それを競い合って、このやつは1番、2番というのが、そういうことも消費者にとっては魅力じゃないかなと思うのですね。

○森吉委員長 現状を分析して、それでコンサルのほうに、どういう形でお願いするかというのを検討していただきます。

ちょっと盛り上がっているところで恐縮ですが、時間がありますので、1番目を終わりにして、議題の2の観光振興・地域支援の可能性についての議題に移りたいと思います。

まず最初に、事務局から説明をお願いします。

○事務局 では、議題2の地域資源・観光振興の可能性についてということで、観光については、白井市は観光地ではなくて、これはこれまで取り扱ってこなかったのですけれども、観光というよりは、地域資源という新たな可能性であるとか、幾つか模索していければいいなということで、今回こういった議題を取り上げさせていただきました。

では、資料に沿っていきたいと思います。

まず、白井の観光というイメージの写真なのですが、これは前回の会議でも使用したものになるので、こういったものがあります。

そろばん博物館だとか、市民プール、あとは千葉県アンテナショップで東京の商業施設での販売だとか、チーバくんプラザ、あと地域資源になるのか、観光になるのかはちょっとわからないのですけれども、ふるさとまつりといったイベントであるとか、ほかには農産物直売所であります「やおばあく」、それと白井の梨畑であるとか、白井の湯、この白井の湯の中には、実は農産物直売所があります。旬彩市場というものになりまして、ここにも白井市の農産物を買える施設が併設されており、意外と人気があるというふうに聞いております。

それと、これはちょっと皆さんの資料にはないのですけれども、追加したスライドで、実は白井市は、日本で唯一の競馬学校があります。この競馬学校は、実はジョッキーを養成する日本で唯一の競馬学校になりまして、これを使って市のほうも、PRであるとか、人を呼びたいと常々思っているのですけれども、なかなかJRAのほうが、PRは

していきたいのだけれども、逆に人がいっぱい来過ぎては困るのだよと。なぜならお馬さんがびっくりするからということで、なかなかここは理解は得られないところではあるのですけれども。過去には、女性ジョッキーの藤田菜七子騎手も卒業しておりまして、ジョッキーの卵の方たちは、毎年ふるさとまつりのほうでボランティアをしていただいて、菜七子騎手も、ふるさとまつりでごみ拾いをしていただいたこともあります。

観光施設の入り込みデータですけれども、これも観光地というほどのものではありませんけれども、協力いただけているところについてはデータを入れてみました。この表ですと、大分細かく出ていることもあって、個々の施設の増減を見ていきますと、白井の湯は、これは天然温泉でして、工業団地の中にあります。ここは右肩上がりで、29年度施設統計でも23万5,000人来ていて、1日当たり、単純計算ですけれども、約650人来ていることになります。こうした施設を使って、温泉のある工業団地なんていうキャッチフレーズでPRをやっていくのも一つかもしれません。

それと、リトルグリーンヴァレー、これゴルフ練習場ですね。これも右肩上がりになっていて、今ゴルフ人口が減っているという中で、若干、今、景気のほうが上向いている状況ですが、ただここ2カ月は、下がりぎみというふうな日銀短観が出ていますけれども、傾向としては景気は上昇しているところになります。

船橋カントリークラブ、なぜか不思議と、先ほどのゴルフ練習場は上昇していたにもかかわらず、こちらのほうは下がってしまっている。背景には、ゴルフ人口の高齢化であったりとか、少子高齢化なんかも影響していて、実際ゴルフをスポーツとしてやる方が減ってきてしまっているということも言えるのかもしれませんが。

次に、白井市民プール、これは天候に左右されるものではあるので余り参考にならないと思いますが、上がったたり、下がったりしています。市民プールですと、大体、単純計算でいうと、約2カ月、70日ほど開設しているのですけれども、大体100人ぐらいプールのほうに、1日当たり、来ていただいている計算にはなります。

それと、白井ゴルフ、これはデータが少ないので次にいきます。

あと遊楽パーク、これはパークゴルフですね。これも緩やかに上昇しています。これは、パークゴルフ、グラウンドゴルフのようなものなので、若干、高齢者の増加が考えられます。

白井そろばん博物館のほうは、ちょっとデータが最近のものなので参考になりませんが、そろばん博物館は、意外と外国人が興味を持って来ていただけているのですよということを聞いたことがあります。

このほか、今後、観光振興をされていく上でのキーワードを挙げてみました。東京2020のオリンピックであるとか、インバウンド需要、地産地消、体験型農業だとか、スポーツ振興であったり、産業観光、白井には工業団地があって、現在産業観光が一つ傾向というところがあるので、ただ一方で、白井市の場合は中小企業中心というこ

とで、安全面の確保がなかなか難しかったりとか、施設の受け入れがなかなか難しいということがあります。

それと、周辺の観光地のインバウンドを対象にした調査からピックアップしたのですが、成田空港から、大体県内ですと、ディズニーランド、成田山新勝寺、アウトレットパークなどについては、このようになっていきます。どこにも行かないという方が2割ございますけれども、これは特にどこにも行かないタイミングなのか、都内に行くのか、ちょっとその辺はよくわかりません。

それと、白井市の地域資源ということで、この辺をちょっと皆さんに意見いただければなど、参考にしていただければなどと思って、例えば、農業。しろいの梨であったり、直売所、梨以外の果樹も意外とあります。出荷市場に出ているかというのはあるのですが、ブドウ、イチゴ、クリ、キウイなどが、生産者の中でつくられています。ぶどう組合、白井工業団地、自然環境、あとは古民家の町並み。それと、これ国の重要文化財指定になっている滝田家住宅というのが平塚地区にありまして、ただ、この滝田家住宅というのは、唯一国の指定の文化財でありながら、居住している住宅になります。

それと、今後、地域の活性化につなげていける施策やヒントを生み出していきたいなどありまして、新たなる産品や加工品、新産業プロデュース、地域資源の発掘などいろいろな意見をいただいて、参考にしていただければなどと思っております。

白井の魅力の発掘について、皆様の意見、考え、アイデア、気づき、感想などをいただいて、今後の会議の議事につないでいただければなどと思っております。いろいろなご意見いただければと思いますので、よろしくお願いします。

○森吉委員長 ありがとうございます。

今、事務局からご説明あったところで、今後の地域振興のヒントや観光や地域資源の魅力、発掘につなげていければということで、皆様からいろいろな意見を聞きたいということです。

ご意見、よろしくお願いします。

井上委員。

○井上委員 以前もちょっと話したことがあると思うのですが、梨がやっぱり白井市の一番有名なものだと思うのですよね。先ほど、スライドにもありましたけれども、オリンピック2年後に来るわけですよね。それで、ちょうど夏だから、梨がもぎる時期だと思うのですよね。全部の品種じゃないですが、8月ぐらいにいろいろとれますよね。

ここのしろいの梨の農家の方は、観光農園、余り積極的というか、いろいろ事情があってできないと思うのですが、その時期だけ限定で、みんなで協力し合って、成田エアポート近いですよね。そこで、しろいの梨もぎツアーやしませんかみたいなプランを旅行会社が提携したりして、そういう企画をつくったり、それから私ちょっと印西のほう

もいろいろ情報をもたらしているのですけれども、松山下運動公園かな、あそこでも結構スポーツでやると思うのですよね。何かのイベントでやると思うのですよ。そういうところにも一応PRして、近いですから、そこに来た外国人の方をこっちにバスで移動して、そして梨もぎりして、それでまた成田に帰るとか、そういったずっと永続的にやるというのではなくて、どうせ2年後にオリンピック来るのですから、そこに特化して、何か白井市だけじゃなくて、印西と協力してできるところはやってみてもいいのではないかなと思います。特に、夏ですから、しろい梨、絶好の季節だと思います。何かそういった企画ができるといいなと思っています。

私もちょっと個人的なのですけれども、英語も習っているものですから、そういった市民も参加して、ボランティアで通訳ボランティアとか、いろいろ絡ませていったらおもしろいかなと、そう思いました。

○森吉委員長 ありがとうございます。ほかにいかがでしょう。

○委員 商工会の女性部のほうで、何年前だったかな、四、五年ぐらいになるかな、今、女性部も商工会の中で、白井市があつて、その上に印旛郡の地域の人たちが集まって、その上にまた千葉県の人たちが集まってという、そういう会があるのですね。その中で、印旛郡市で持ち回りでいろいろな地域の人たちを呼んで、それでその地域を案内するというところがあるのです。

そのときに、白井市の番のなったときに、白井のさっきの梨、ちょうど梨の時期に、じゃあ皆さんお呼びしましょうということで、梨のときに、神々廻の梨の出荷場、あそこを案内して、あそこでちょっとお土産を買っていただいて、それとあとは競馬場、先ほどもおっしゃいましたが、競馬学校、あそこをお願いして、あそこを見せていただいたのです。そしたら、もう皆さん、ここは絶対行けないところですので、すごい喜ばれたのですね。だから、そういうところをもうちょっと白井市というものをPRしていったらどうでしょうかと思ったのです。

○森吉委員長 ありがとうございます。

○委員 皆さん、何か、ここ、ここという、梨だったり、何かだったり、何かに行きたいとか、そういうふうに思われるかもしれないですが、私、友達が意外と都内のほうから遊びに来たときに、じゃあ、どこか買い物行くのに一緒に行くといってドライブすると、皆さん、本当に何でもない、例えば、うち西白井なのですけれども、西白井から「やおばあく」のほうに抜ける裏側の、ああいう田園風景に出たときに、みんな、「わあ、すごい」と言うのですよ。いきなり何か実家のほうに帰ったみたいとか、意外と何でもないそういう風景にみんな感動してくれて、遊びに来たときに、またあの辺ドライブ行こうとかおっしゃるので、意外と、何かというよりも、何でもない普段見ている風景というのが、案外都会に住んでいる人には物凄い価値のあるものだったりすると思うので、逆に、そういう田園風景を見て回って、ついでにこういうものを、古民家だったり、旧

家だったりを回ったり、里山を見て歩くみたいなもののほうが受けるのではないかなと最近思っております。以上です。

○森吉委員長 ありがとうございます。

○委員 さっきおっしゃったのと同じようなものなのですけれども、梨マップもありますけれども、もう少し観光マップでも、観光という面じゃなくて、白井の自然の面というのももっとPRしていったらいいのかなと思うときがあります。

○委員 先日、私、山梨のほうに行って、ポール・スミザーさんという英国の方がつくっているお庭を見てきたのですけれども、そのお庭というのが、英国ガーデンではなくて、日本の山とか林とか雑木林に生えている草だけでつくったお庭なのですよね。もう里山再現みたいなお庭で、そこにどンドン、外国人だったり、よそから観光客が来ている、あれを見たときに、ここに来なくても、うち近所にいっぱいあったなみたいなそんなところがあって、グリーンツーリズム的な何かそういう、先程おっしゃったように、自然の観光みたいなものができるといいのではないかなと思いました。

○森吉委員長 ありがとうございます。

ターゲットはどこにしようか、2020年のオリンピックで外国の方がたくさん来る方をターゲットにすると、私たちが普段見ているものでも、外国人の方にはすごく新鮮に映るかもしれませんし、ターゲットを絞ったいろいろな調査で、意外なものが、すごく目新しい、また観光用地になるのかもしれないので、そういう調査も必要なかなと。

ほかにご意見ございますか。

○委員 外国人観光客を呼び込む方法みたいなものが、これは、この会なのか、しろいの魅力の発信課なのかわかりませんが、ちょっと考えたらいいと思うのですよね。

だから、要するに、日本人観光客にはもちろん来てほしいのだけれども、先ほどどなたかがおっしゃったように、成田と羽田の間であって、非常に交通の通過地点にしかすぎないですよね、現状。これはやっぱり何だろうなといたら、外国人の観光客を呼び込むような方法とか方策を考えるのも一つの方法ですし、もう一つは、やっぱり外国人が日本の医療にかかりたいという人が結構いるみたいですから、そういう人たちを呼び込む。これは医療機関、すぐそばにもあるわけですから、具体的にその辺が連携できるのか提携できるのかわかりませんが、そういった方法をちょっと考えたら、また違った形での白井市の魅力というのが出るような気がします。以上です。

○森吉委員長 ほかにいかがですか。

○事務局 事務局からなのですけれども、なかなか白井市の場合ですと、観光地というわけではなくて、外の人たちに売り込む魅力的なものがあるのかといたら、なかなか農業、商業、工業のバランスのよさであったりとか、あとは都心や成田空港に近く住環境がいいという白井の魅力があって、そうしたことも白井市の魅力発見というか、全体的に言えば、白井市としてはやっぱり梨が一番あるだけまだいいのかもしれないけれど

ども、この6万3,000人のコンパクトシティのプラン、大きなことはできないですし、観光地でもないけれども、小さなことで何かできることはないかということで、この地域の特性に合ったもので、何かできることやこんな資源あるよ、これとこれが結びついたらおもしろいよというのを生み出していけたらいいな、何か発掘ができるといいな、ありがたいなと思います。

なかなか行政のほうにいますと、一方通行じゃないですけども、意外に見えているものが見えなかったりとか、そうしたことがあって、その辺については、市民の方々の目線だったり、各産業分野の目線だったりとかというところがあると、すごくいい白井市になると思います。

○森吉委員長 ほかに。どうぞ。

○委員 観光という意味では、どういう人たちをここに来てもらうか、何でその観光を、これで取り上げていくのかということだろうと思うのですね。だから、やはりこの白井の中で、観光は一つの産業として成り立つというところまで持っていければ、あるいは、また観光とは呼ばないけれども、白井にわざわざ目的で来ている人たちであるわけです。

例えば、私は知らなかったのが、河原子街道のところにピストルを撃ち合うみたいなところがありますよね。こんなのあるのというような、あそこは、わざわざ電車に乗ってくるのです。言われてみれば、そんな看板、余り出ていないけれども、あるねと。あるいは、乗馬するところも。

○委員 サバイバルゲームですね。

○委員 サバイバルゲームのね。

それから、乗馬、あれ学校で教えられるところ、あそのフジコーさんのそばにもありますよね。そういう人は来ているのだろうなど。

だから、さっきここで紹介されていた温泉、白井の湯でもそうですけれども、それも掘り起こして行って、白井じゃない他から来てくれる人は、ここで何か昼を食べたり、あるいは、そこの施設に落としたり、そこにそういうところができたりすれば、法人税も払うし、固定資産税も入れるし、地代もという、それが非常にもっと大きくなれば、外国人もということなので、今回、観光なんていう見地は、なかなか観光がなかったけれども、産業振興課としてつくり上げていくと、今出たことなんかも、何か少し予算化して、さっき540万も予算化を聞いたもので、100万もあつたら、散策マップ、印西市にはありますよね。散策マップとか、いろいろな種類の。ああいうのを白井の散策マップなんかもつくって。よく北総線なんかも、人を集めて散策するじゃないですか。私も去年参加しました。だから、白井の中をああいう私鉄がやるようなものをできるだけ呼び込んで歩いていくとか。

そういう意味では、ここで産業振興課が旗振って、我々も応援しながら、大いに白井

を知ってもらって、あるいは、我々自身も知ってという、それで産業として根づいていくことが大事じゃないかなと思うのです。

そういう意味では、農業としての観光農園が1カ所もない。知り合いだとか人が来たときに、ブドウ狩りとか、イチゴ狩り、前はあったけれども今はないね。そういうことで、どうして白井にはそういう観光農園がないのかわかりませんが、他の隣接した市町村には観光農園があるわけです。

だから、そんな意味では、親類の人が来たら、一緒に子供たちと遊びに行けるようなところが市内にどうしてないのかなというようなところからも、いろいろ押し進めていったら、観光資源は幾らでも、幾らでもというほどではないでしょうけれども、盛り上げていくことも大事じゃないかなと思います。

○森吉委員長 ありがとうございます。

外国人の方にとっては、白井というより、日本、さらには千葉と、ここだけというのではなくて、コンサルティングのいうように、それぞれの白井の周辺の魅力というのが、例えば成田山新勝寺行って、その後白井に来てもらってもいいだろうし、ここだけというより、千葉全体を広めて、いろいろな、ここにも寄っていただくという視線でのコンサルティングみたいなものになるかどうかだと思います。

どうぞ。

○委員 コンビニなんかは、駐車場の広いコンビニにはお客さんがたくさん集まる。小さいところには行かない、入らないですね。そういったことも見ても、やっぱりモータリゼーションというか、そういう受け入れるスペースが広がらないと、人は寄ってこられない、寄りたくても寄れないという状況があるのではないかなと思いますね。

逆に、広大な、そういうモータープールのようなものを少し想定すると、例えばそこに観光バスが、この首都圏の中で白井市に観光バスを置いて、ここから、例えば北総鉄道でもって都心に出るとか、あるいは、動物園とかディズニーランドに行くとか、そういうシャトルバスを出すとか、そういうような仕掛けができるのではないかなと。

もちろん梨もあるだろうし、里山観光もあるだろうし、地域の名所めぐりもあるだろうし、都心から1時間というこの距離、多少、地の利を生かした何かいろいろなあらゆる手が見えてくるのではないかなというふうに思うのですよね。

ですから、遊休地とか、そういったところも含めて、どれぐらいの規模の駐車場というか、そういうスペースをつくって、そしてそのスペースの周りに飲食とかショッピングとか、そういったものも併設できるのではないかなと。とにかく人がたくさん集まってくる企業も、そういう仕掛けを考えると、張り合いが反映してくるのではないだろうかということは想像できるね。

コンビニの状況を見て、そんなことを思っているということをお伝えして、何かのお役に立てればね。

○委員 北海道に上野ファームってあるのをご存じないですか。上野ファームという観光地があるのですけれども、もともと観光地ではなく、ただの農家なのですよ。

農家なのですけれども、直売をやってらっしゃった農家で、どうせ直売に買いに来るお客さんが来るならというので、まず直売所までの道にお花を植えたそうなのですよね。お花を植えたら、みんなが見ていくので、もうちょっとあいている使っていない畑にも庭を広げようというので、いろいろいっぱい植えたら、その庭が有名になって、農家は農家でやってらっしゃるのですけれども、その庭を見にどんどん、どんどん観光客が訪れるようになったところがあって、観光客が来るので、じゃあ、せっかくなので近隣の農家の農作物も売りましょうという形で、ファームみたいな直売所ができて、どうせ人が来るのだからというのでカフェもつくって、どうせだったらお土産もという形で。だから農家はそのままやっているのですけれども、観光農園というわけではないのですけれども、ちょっと整備することで、人がどんどん来るようになったという実例があって、そこまで大規模なお花を植えようじゃなくても、白井のあたり、ちょっと道が狭かったりとか、もう草がぼうぼうだったりするのをちょっとだけでもきれいにして、それこそ先程おっしゃっておられたように、マップをつくるだけでも、全然それだけで人を呼べる、何ていうのですか、都会で暮らしていると、ちょっと田舎の空気が吸いたいというときに、距離的には適度な距離だと思うのですよね。

なので、そういう形で、大げさな観光というよりは、息抜きに来られるような何かそういう仕組みができればいいのではないかなと思いました。以上です。

○森吉委員長 どうぞ。

○事務局 事務局なのですけれども、先ほどお話であったように、確かに白井市が、農家があって梨の直売所なんかもあったり、観光梨園とかがあって人を呼べばというお話が、多分、前回か前々回も恐らくあって、確かにそれがあると、すごく人を集められて、より魅力的にPRしていければなというところは、常々、我々も考えており、ただ一方で、なかなか白井市の梨の生産者の方を見て、こういうものをつくりたい、品質を落とさずに一生懸命に梨をつくると、真面目な農家さんですよね、が、すごく多いのが特徴で、人が梨園とかに入ってしまうと、やっぱり梨の樹木を痛めてしまったりとか、質を落としてしまって、年々農作業をなされてきた人も、なかなか普通のパートも雇うのも怖くて、毎年、同じ人に梨の畑に入ってもらおうという農家もいるぐらい、なかなか梨の生産に関しては、すごく品質を落とさないように一生懸命頑張っている。なかなか観光面までは結びついていないというのが現状ではありますね。

ただ、そうはいっても、市内に観光農園は3件あるのですよね。先ほどちょっと輪島委員さんのお話にもありましたとおり、例えば農家があって直売所があって、カフェがあり、お土産がありって、どんどん産業としては広がっていくということで、一つの取り組み例でいえば、谷田地区で農カフェをやっていらっしゃる事業者さんがいて、そうい

う方も、つい数年前に白井市で起業された方で、最初カフェからやっていたところが、例えば一部障害者の方に農作業をしてもらって、意外とそういう方を使うと、いい農産物をつくるのですよ、一生懸命に仕事してくれるのですよという、またここに、農福連携といったそうした観点もあったり、そこでまた、地場の新たな野菜であり、農産物になって、お土産を買っていってもらったりとかという広がりをしている取り組みも一例としてはあるので、そうしたことを、より市内に増えてきてくれればなと思ってはおります。

○森吉委員長 ありがとうございます。ほかにご意見ございますか。

○委員 今井の桜のところがなくなるとお聞きしたのですけれども、あれこそ、それこそ最大の観光資源だと思うのですが、どうなのですか。

○委員 あと二、三年でしょう。

○委員 ですよ。なくなると。結構見に行くと、最近、外国人の方とかも来ていたりとか、すごい人気があって、昔よりもどんどん、人が多過ぎて見づらくなっていると思うのですね。

○委員 今、あれ、下から上まで全部歩いてみると、よくわかるのですけれども、もう木の下がえぐれちゃっているところが何か所もあるのですよ。あの辺、耕地整理入るみたいで、それに合わせて。

○委員 変に整備をガシッとしないで、あれを残しつつみたいのはできないのですか。

○委員 何の、何の、どこですか。

○委員 今井の桜。

○委員 桜ね。

○委員 あと何年だろう。

○委員 2年。

○委員 その後、どうなる予定なのですか。

○事務局 今井の桜については、今、手賀沼土地改良区の工事をどういった工事にするかというのは、地元の皆さんと、これから話し合いをしていきたいということではあるのですが、一応、案を掲示して、検討していただき整理をしていくということです。

それから、あの辺の一体を水田が非常に、相当昔に圃場整備されたということなので、小さい水田の区画になって、それを大区画化をして農業生産、水稻ですが、稲の耕作がしやすいように整備をし直すというようなことを含めた整備の中で、金山落とし水路ですか、その水路の改修を加えていくことになっています。

桜の木というのをできる限り残していきたいということの案は持っているのですが、今の現状のような景観と風情のあるという形を残すというのは、ちょっと難しいということです。

○森吉委員長 ほかに。

○事務局 あと、今の現状で、手賀沼土地改良区さんの調査に入りまして、現地へ行くと、黄色いテープと赤いテープが張ってある木があるのですね。その黄色と赤の色分けなのですが、赤いテープですと、この木の下で花見をしたりすると、枝がいつ折れても、ちょっと危険な状態ですよという警告のようなものをしております。また、黄色のテープも、そういった次に危険な状態が、ありますよと、調査で判明しておりますというようなご案内をしておるようなところですよ。

その木が大体8割ぐらい。全部であそこは約300本近くあるのですが、その8割ぐらいがそういった木になってしまっているということが現状ではあります。以上です。

○森吉委員長 ほかに。

○委員 先ほど説明の中で「やおぶうる」があったじゃないですか、あそこの「やおぶうる」のある駐車場、夏は大変人気があって、他市町村からもたくさん来られるのかなと思うのですが、通年型に利用したら、できないのかなと思うのですけれども、その駐車場はどのぐらい台数はあるのですか。例えば、300とか、おおよそ。

○事務局 事務局ですけれども、駐車場はちょっと数えたことはないのですけれども、市民プールの要は駐車場ですよ。やおぶうる。

○委員 「やおぶうる」というか、あそこのプールの……。

○事務局 そうですね、駐車場ですよ。あれは、大体、日当たり600人来る対応はしている施設なので、それを600ではなくて、そうではないときもあるのですけれども、ちょっと台数は何とも言えないけれども、今市民プールの集客には対応できる駐車場程度としか言えないですね。

○委員 先ほどの委員からもあったように、白井市の場合、ほとんど車で来る以外ないわけで、あそこを本当に2カ月間だけしか使わないのはもったいないので、何かそういう意味では、とりあえず「やおぶうる」をつくるのですが、それも試験的なもので、まだ日数は、開く日数は少ないのですけれども、何かそこでイベントをやるとか、何かやっていければおもしろい場所なのかなと思います。

工業団地としても近いので、借りられれば、あそこで何かをやったり、そういうものを考えていけばいいなと思います。モータープールみたいに。

○委員 モータープールのお話をしましたが、モータープールというのは、災害時の災害の対策拠点にもなるのですね。避難場所とか。ですから、いかに車をとめるスペースというのではなくて、非常に多目的に活用できるということを念頭に置いて検討してもよいのではないかなと。活用法は相当あると思うのですね。首都圏から1時間のところですし、スペースもまだまだありそうな感じでもありますし、活用法を考えていったらいい。

何と云っても、都心から1時間というのは大きな魅力だろうと思うのですね。自然もありますし、都心の人にとっては、大変魅力のある地域だと思います。

○森吉委員長 そろそろ時間ですが、まだご意見あれば、お願いします。

○委員 今、皆さんのお話の中で、生かすものというのがありましたけれども、やはりほとんど出ましたけれども、歩道とかの整備とか、こういった自然を歩くとか、工業団地を歩くという中で、結構、工業団地がありますので、トラックや大型バスだとかの通行が非常に多い、そういう問題があります。

そういうところに人を呼ぶとなりますと、やはり安全性というのが第一になってくると思いますので、すぐにできるものではないとは思いますが、まず歩道の整備等、今、先ほど草がいっぱい生えているよというところがありますし、そういうところも整備して行って、まず人が歩けるように、そういうところを常に維持できるような形をとっていかないと生かしていけないのかなと思いましたので。

交通の便が非常に悪いのが工業団地という話も正直なところありまして、その辺ですね。交通、いろいろなものを見てもらう、その中では、道路整備という点ではちょっと難しいかと思うのですが、例えば歩道の整備ですとか、その辺をまずきっちりやっていけばいいのかなとは思いました。

○委員 工業団地協議会としては、工業団地の外周道路をつくってくださいよということをもう何遍も皆さんおっしゃっているのですが、やはりここからは工業団地ですよ、そちらは一般の道路ですよというところの区別がはっきりしていないと、やっぱり安全性を確保するという点では、大変厳しいものがあるだろうと思うんですね。

ぜひ、都市計画をしっかりとよろしく願いいたします。

○森吉委員長 ほかにいかがですか。よろしいでしょうか。

いろいろなご意見が出てきましたし、また、コンサルにも頼む機会があるのでしたら、こういう意見は、外部の専門家の意見も聞きながら、いろいろなアイデアが出てくると思います。ぜひ、市のほうで今後進めていただければと思います。

皆さん、どうもきょうはご意見ありがとうございました。

続いて、議題の3に、その他に入ります。

その他について、事務局のほうから何かありますか。

○事務局 議題3、その他ですが、議題ではなく、お知らせになりまして、次回の会議は、また例年どおり10月上旬ごろを予定しています。その折には、今回説明しました歌舞伎座木挽町広場での販売の状況であるとか、あとは「やおぷうる」での販売の状況であるとか、そういったことについて、皆さんにご案内できるかなと思っています。また、よろしく願いしたいと思います。

○森吉委員長 ありがとうございます。

それでは、本日の議題はこれで終了になります。

これをもちまして白井市産業振興ネットワーク第1回会議を閉じたいと思います。

どうも皆さん、ありがとうございました。

